

古関裕而作曲

しおがまし みんか

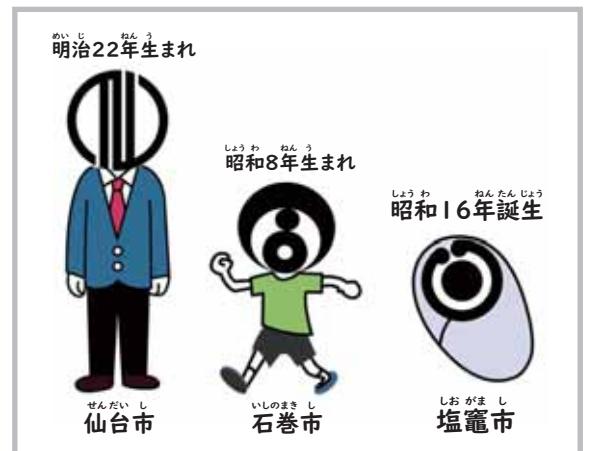
「塩竈市民歌」を知っていますか？

塩竈市は来年で80歳になります。皆さんは、今から80年前に作られた「塩竈市民歌」を知っていますか？歌のことを調べながら、一緒に塩竈市のことを見つめなおしてみましょう。

1. 塩竈市民歌って？

塩竈市民歌は、塩竈市ができた記念に作られました。昭和16年11月23日に、仙台市、石巻市に次いで3番目に市になりました。東京日日新聞社(現在の毎日新聞社)に、市民歌と市章(市のマーク)の公募を依頼して決定したとされています。

しかし、塩竈市ができた直後に太平洋戦争に突入、戦後は、歌詞の一部に時代にふさわしくない部分もあり、歌われなくなってしまいました。

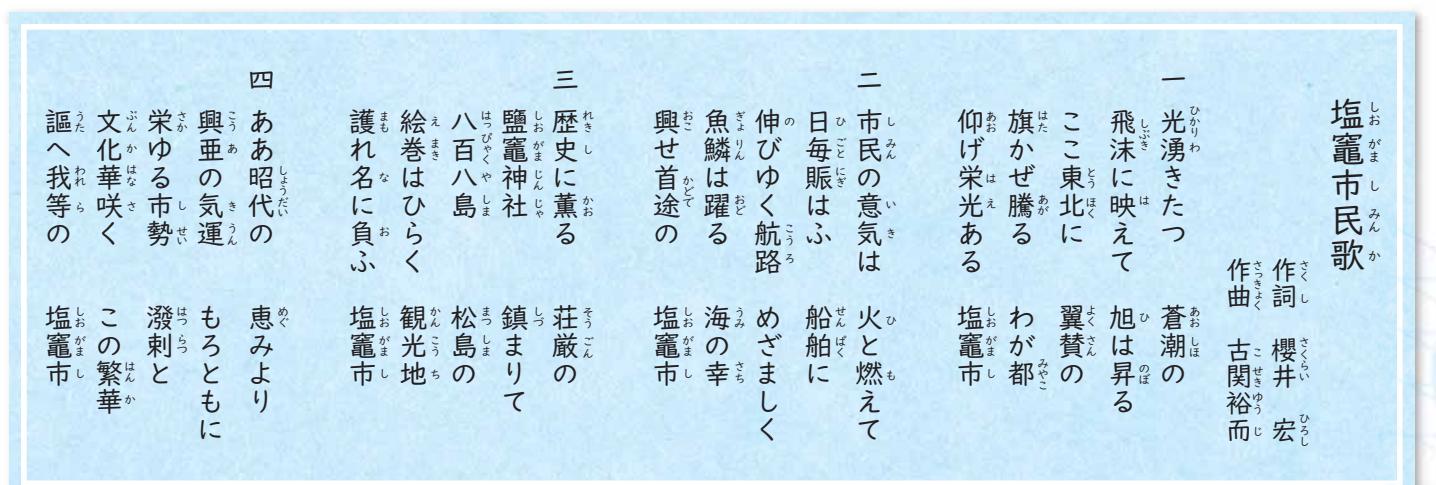


▲「昭和初期の市街と港(現在の海岸通)」市民提供

2. どんな歌詞なの？

現在、詳しい資料が見つかっておらず、詳細は分かっていませんが、作詞は櫻井宏さんです。歌詞には「蒼潮」「航路」「海の幸」などの言葉が含まれ、市がみなとまちとして栄えてきたことが分かります。

今回は、歴史的資料として、現在では適切でないとされる表現を修正せずに掲載しています。



3. 作曲者は夏の甲子園の曲を作った人

市民歌を作曲したのは、福島市出身で日本を代表する作曲家の古関裕而さんです。生涯で作った曲はなんと約5,000曲! 「阪神タイガースの歌(六甲おろし)」や全国高等学校野球選手権大会の歌「栄冠は君に輝く」、昭和39年に開催された東京オリンピックの選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」も古関さんの作曲です。NHK連続テレビ小説「エール」で主人公のモデルにもなりました。

福島市古関裕而記念館にある「古関裕而先生像」。「エール」では窪田正孝さんが演じています▶



福島市古関裕而記念館の学芸員 氏家浩子さんに
お話を聞きました。



▲福島県福島市にある福島市古関裕而記念館

4. どんな曲なの？

今回、市民歌を知らうと、当時の塩竈市を知るNPOみなとしほがま 佐藤健太郎さん、市民歌を歌い続けてきたコーラスグループリリーズ・コールの皆さん、コミュニティラジオ局ベイウェーブの協力のもと動画を作成しました。市民歌が誕生した約80年前の塩竈市をイメージしながら聞いてみてください。

塩竈市ホームページ

「塩竈市民歌を
知っていますか？」



～市民歌は、市の歴史を知る手掛かりに～



◆小学校2年生頃の
佐藤さん

NPOみなとしほがま 佐藤健太郎さん
塩竈市になった当時、私は第二小学校の二年生でした。塩竈市民歌を学校で歌つたことを覚えています。戦時中だったので、歌いながら市内を行進した思い出があります。古関裕而さんの作曲ということは大人になつてから知りました。
今の中学生の皆さんには、市の歴史を少しでも知ってほしいと感じています。その土地で生まれ育った人の声を聞いて、それを土台に明るい未来へ飛躍してほしいと思います。私にできることがあれば、いつでもお手伝いします。